The algorithmic beauty of plantsを基に、L-Systemを実装した。

# L-System

1.7章（P.28）のStochastic L-Systemを実装した。

動作確認したルールは、Figure 1.24、Figure 1.25、Figure 1.27。

# Parametric L-System

1.10章（p.40）のParametric L-Systemを実装した。ただし、conditionについては、まだ動作確認していない。

動作確認したルールは、Figure 2.6、Figure 2.7、Figure 2.8（ただし、branchのbendingは実装していない）。

L-Systemによる木の生成では、いろいろ制限があることが分かった。例えば、再帰数で再帰する回数を制限する方法だと、木の下の方の枝別れの多さに対して、木の上の方の枝分かれが極端に少なく見える。また、branchのbendingについては、例えばp.58のTropismで説明しているように、ルールとは別に、木の角度を変えるという実装が必要になる。結局、ルールでは表現しきれないということだ。だったら、そもそもL-Systemにこだわる必要はないのでは？